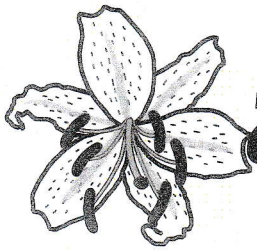

あ・そうかい通信

あ・そうかい 会報
第15号
2018年12月17日
発行：あ・そうかい
編集： 運営委員会

さあみんな、来年こそはあのステージへ！

さあみんな、楽しく遊ぼうよ！ いつもの仲間だから遠慮も気どりもいらないぜ！ たまには思いっきりはじけちゃおう！ ―とまあ、「！」だらけの気楽なノリで開くのが「あ・そうかい文化祭」だ。会の仲間が気軽に集まってわいわいガヤガヤとそれぞれの芸や歌を披露する秋の無礼講。2回目となることしは10月30日、麻生いこいの家で開かれ、会員たちが賑やかに午後のひとときを過ごした。

酒席のふとした思いつきからアイディアが生まれ、「文化祭」という具体的な形となって実現したのは昨年秋。そしてことしも、総合プロデューサー役を務める中島泰志さんのもとに、「なんか面白そうだぞ」と結集したスタッフがそろい、準備を進めて無事に第2回の開催にこぎつけた。今回は新たな演目が二つ。ひとつは佐々木直子さん夫妻のデュオ（ギター、キーボード）に中島さん（ギター）も加わった歌と演奏、もうひとつは牧野克己さんと中島さんが組んだ「マッキー&ナカジー」の歌謡漫談だ。ますます芸域を広げつつある「あ・そうかい」のエンターテイナーたちである。

やっぱり この人！

そのほか、日本舞踊、山浦弘靖さんの一人芝居、朗読3題などと続き、大トリははもちろん、南亭八ッ太師匠こと飯田保幸さんの落語。今回は「二番煎じ」の熱演で客席をわかせた。締めはおなじみ、「青春時代」と「今日の日はさようなら」の大合唱。みんなの心がまさしく「青春時代」に戻った秋の午後だった。

ところで、ちょっと残念だったのはこのことだ。「もっとたくさんの人に見てもらいたかったね」とスタッフが口をそろえたように、観客数がやや少なかったのである。

今回、麻生いこいの家に集まったのは、会員外も含めて32人。出演者、スタッフが合わせて16人だったから、客席はちょっと寂しい埋まり具合だった。もちろんアクティブな会員たちが忙しい毎日を過ごしているのは承知しているのだが、それにしてもいささか残念な観客数と言わねばならない。せっかくの仲間の晴れ舞台なのである。次回こそは、時間をひねり出して会場に駆けつけてほしいところだ。

まだまだ未完成な演しものもあるだろうが、そこはそれ、「芸術を育てるのは観客だ」とシェイクスピアも言っているではないか（言ってません）。会員でない友人、知人も誘ってみよう。「こんな遊びにこれだけのエネルギーをそそぐとは、きっと大人物の集まりに違いない」と思って入会してくれるかもしれない。

出演者ももっと増やしたい。数々の情報によると、さまざまな芸やすぐれた楽器の腕前を秘めている会員も少なくないようだ。でんな腕達者がこぞって出演すれば、観客席は超満員となり、会の外にも「あれはすごいぞ」と評判が届いて、ついには「あさおの秋の風物詩」となるのも夢ではない。

マッキー&ナカジー

さあ、来年こそ文化祭にいこう！ ためらわずにあのステージをめざそう！ と最後まで「！」の多い、いささか興奮気味の「文化祭のすすめ」なのであった （佐藤次郎）

昼の@サロンを振り返って

これまでの@サロンは夜に開催されてきましたが、当初の目論見とは異なり、参加者はお酒の好きな男性会員が中心となり飲み会的な要素が強くなりました。また、女性会員からは夜は外出しづらいため、昼に@サロンを開催してほしいとの要望が多く寄せられていました。さらに「あ・そうかい」が発足してから3年8ヵ月が経過しますが、まだメンバーの顔と名前が一致しない状況にあるため、新たな交流の場を設ける必要があると考えました。

これらの状況に鑑みて今回、初の試みとし　11月25日(日)にお酒の飲めない会員や女性会員が気楽に参加できるように例会後に引き続き@サロン（コーヒーとお茶付き）を開催しました。その結果、参加者は夜の@サロンより3倍程度多い33名となりました。また今回の@サロンは抽選により5グループ分けして、今まで話ができなかったメンバーとも話ができるようにしました。各グループとも活発な意見交換が行われ、話題はメンバー全員の共通関心ごとの長生きに伴う健康問題、認知症問題、終活の在り方が主なテーマになりました。

初の試み：昼の@サロン

会員の皆様からは普段このようなことを話し合う機会がないため、今回の@サロンのやり方を今後とも継続して欲しいとの要望が寄せられています。運営委員会としては@サロンに相応しいテーマは数多くあると思いますので、年2回は昼の@サロンを行い、会員相互の交流を更に深めていきたいと考えています。

（運営委員会）

魚眼・複眼

8月26日の朝、麻生小学校から区役所に向かうT字路の交差点で、青信号横断中に右折してきた車に撥ねられた。

歩行中、右手から黒い影が近づいてきて、急に空が青いなと感じつつ、異常な事態がおきているなと直感、空中にいる時に頭を押さえて道路に落ちた。

瞬間的な出来事だったのに、私には時間がスローモーションのように流れた思いがある。よく臨死体験すると、時間が長く感じると言いますが、そんなことでしょうか。

道路に転がってから、加害者がタクシーとわかり「プロなのに何をやっているんだ！」と怒鳴りつけ、「道路に寝転んでいるので会えなくなった」と友人に携帯し、救急車で新百合ヶ丘総合病院に運ばれた。すごく、冷静であった。

検査の結果、腰椎圧迫骨折で直ぐに入院ということに。コルセットができるまで2日間は絶対安静。オムツをして、下の世話も看護師さんにお願いすることに。将来の予行演習かな、と変に納得した。

以降、コルセット着用で、毎日リハビリ室に。そこの風景は、歩くことが不自由になった高齢者が手をとられて歩行練習。これまた将来の姿を連想させる。寂しいな。

1か月間そのような変化ない入院生活で様子を見て、運よく手術することなく退院できました。

こんなに元気！

偶然与えられた休日でしたが「たまに立ち止まると、色々なことが見えてくる、考えられる」ことを痛感しました。

その間、お見舞い、励ましの言葉をいただき、あらためて感謝申し上げます。

季節のうた

ケヤキ

まど・みちお

冬がれの　いなかに行くと
いつも地平線に
ケヤキが　立っている
私に　むかって
高々と　手を　あげて

あれこそ　地球の手だ
あれに　迎えられるたびに
私は　なつかしさに　ふるえる

帰れるはずも　なかった
とおい　星から
ぐうぜんに　この地球に
帰りついたばかりの人のように

なんびゃく年ぶりに
母のむねに
だきかかえられた人のように

編集後記

去年今年　貫く棒の如きもの

虚子の新年の句ですが、編集子にはなぜか暮れになると思い出す句なのです。みなさま、どうぞ良き年末、年始をお迎えくださいますように。